

論文の内容の要旨

論文題目 医療コミュニケーションにおけるメタファーの役割
——認知の共同構築の観点から

氏 名 森 博

本研究は、認知言語学の観点から、医療コミュニケーションにおけるメタファーの役割を考察したものである。

第 1 章では、問題提起とデータについて概説する。医療において、言葉によるコミュニケーションは医療者と患者が信頼関係を築き、治療をスムーズに進める基礎である。メタファーはそれを用いる話し手および所属する集団の認知様式を表出しているため、医療者・患者間の会話におけるメタファーは、認知の共同構築の手段だと考えられる。本研究は、実際の医療現場で交わされた会話におけるメタファーを取り上げ、特定のメタファー表現が現れる原因、そしてメタファー表現が会話の流れに与える影響を観察する。これにより、今迄のメタファー研究では明らかにならなかったメタファーの性質と特徴を検討する。

第 2 章では、先行研究をまとめ、本研究の位置づけを述べる。2.1 節では、医療コミュニケーションの先行研究を踏まえた上で、本研究がメタファーに重点を置き、言語学の枠組みから分析することの意義を説明する。2.2 節では、メタファーの理論的先行研究における問題点を論じる。具体的には、メタファー表現とメタファー思考、メタファーと類似性、メタファーと身体性、メタファーとカテゴリー化、メタファーとメンタル・スペースにおける概念融合を検討する。2.3 節では、本研究のメタファー理解の 3 段階モデルを提示し、メタファーの成立条件とメタファーの部分的写像を説明することを試みる。2.4 節では、メタファーとシミリは連続的な関係にあり、根底には同じ思考様式が存在していることを示し、メタファーを定義する。2.5 節では、本研究の位置づけを論じる。

第 3 章では、同じ事柄について、医療者と患者が用いるメタファー表現の相違に反映される認知のずれを考察する。具体的には、二つのテーマを取り上げる。3.1 節では、患者が「痛み」という感覚を「外傷」に喩える行為と、医療者が持っている〈人体は機械〉という比喩的思考との関連性を検討する。3.2 節では、〈治療は戦い〉の医療者メタファーと患者の病気観の間に存在するギャップを検討する。集団の背景知識とメタファーの特質がどのように絡み合い、認知にどのような差異をもたらすかを考察する。3.3 節では、特定のメタファーを適用する際に、具体的な場面を考慮し、類似性と非類似性を十分確認することの重要性を指摘する。

第 4 章では、医療現場で交わされ多様なメタファーを含む 8 つの会話データを取り上げ、認知の共有化を築き上げるプロセスを観察する。言語コミュニケーションは、参加者が同一の事態に対する認知状態を共有することをゴールとする。参加者それぞれが認知主体として異なる背景知識を持つ中、メタファーは事態に対して主観的な認識を共有することを促す。中国と日本両方の会話データを取り上げることにより、言語や文化を問わず、医療コミュニケーションにおけるメタファーの基本的な役割は同じであることを示す。4.1 節における三つの会話では、ある事態に対して、医療者は患者がよく知っている分野を根源領域とするメタファーを使用し、患者の理解を得る現象が観察された。4.2 節における三つの会話では、患者が決断できなかつたり、無意味な交渉をしたりする際、医療者はメタファーを用いて事態を捉え直し、患者に新たな見方を提供する現象が観察された。4.3 節における二つの会話では、擬人のメタファーがレポート構築に役立つ現象が見られた。4.4 では、医療におけるメタファーの特徴、そして中国語会話と日本語会話に見られたメタファー使用の相違をまとめる。

第 5 章では、医療情報リテラシーを向上させるために、メタファーの部分的な写像という観点を取り入れる。社会における医療情報は、個人から出発して社会レベルの意思決定に影響することが想定されている。医療情報の中に含まれているメタファー表現が、プライミング効果を引き起こし、人々の認識および決断に影響をもたらすことを、アンケートに組み込まれた実験という形で、実証的に検証する。

第 6 章は結論として包括的考察について記す。